

福島原発事故 汚染・被ばく

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会(美浜の会) 2011.5.17.

**3月11日以来、
事故の深刻さは増すばかり**



4号

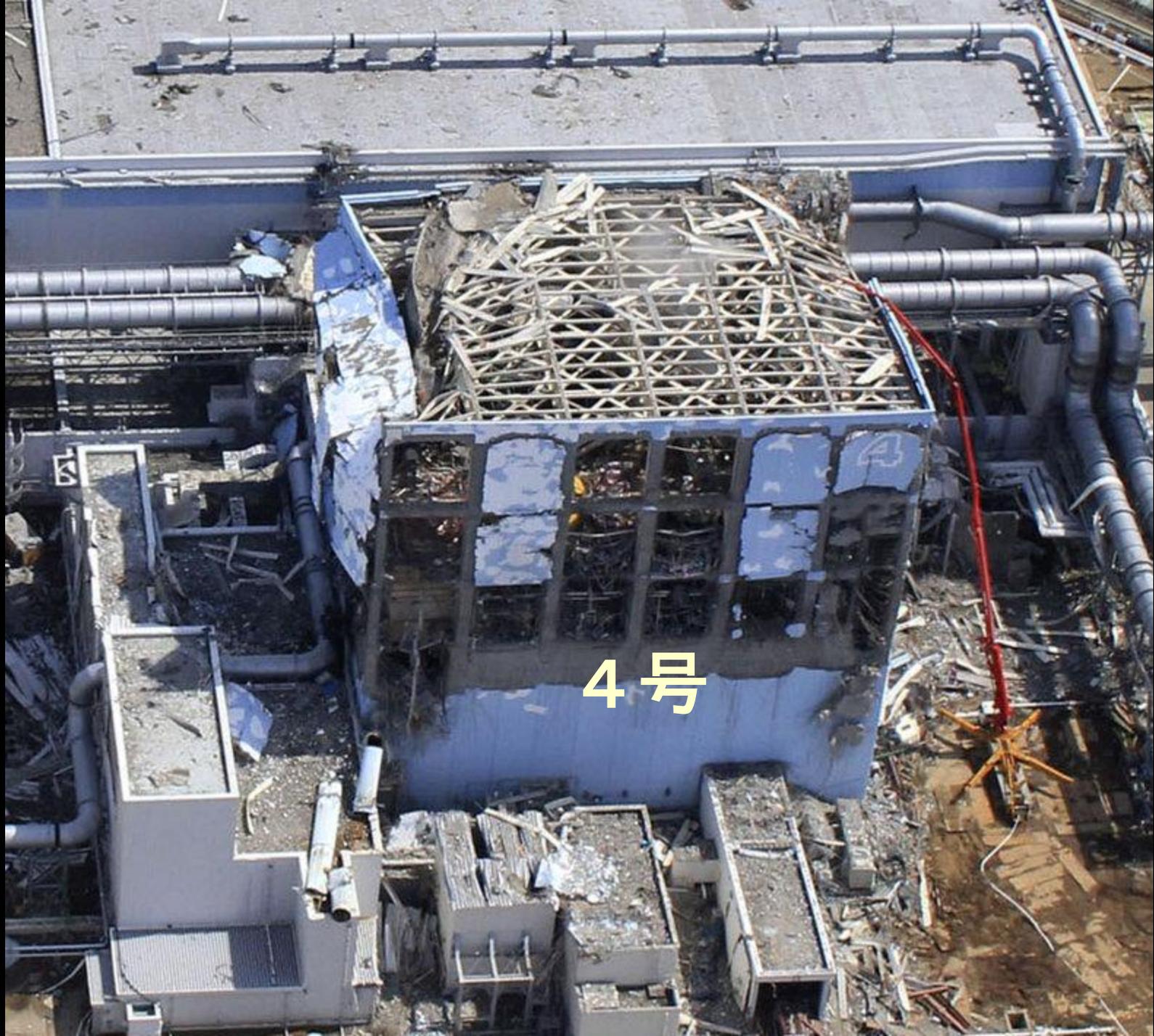
3号

2号

1号

3号





4号

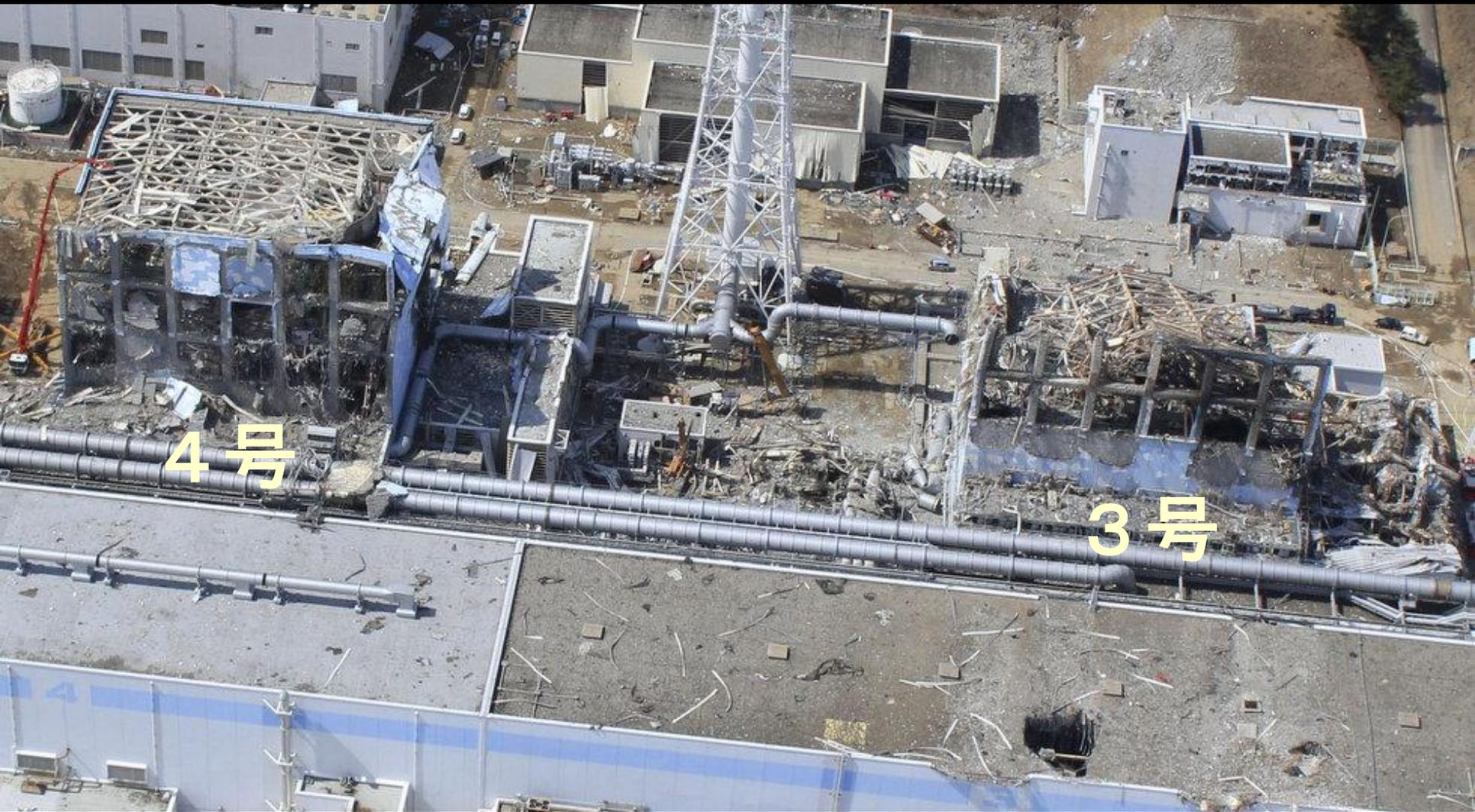


1号

2号

3号

4号



○燃料はメルトダウン。

1～3号機すべてで圧力容器が破損。
建屋内は高濃度の放射能で汚染。

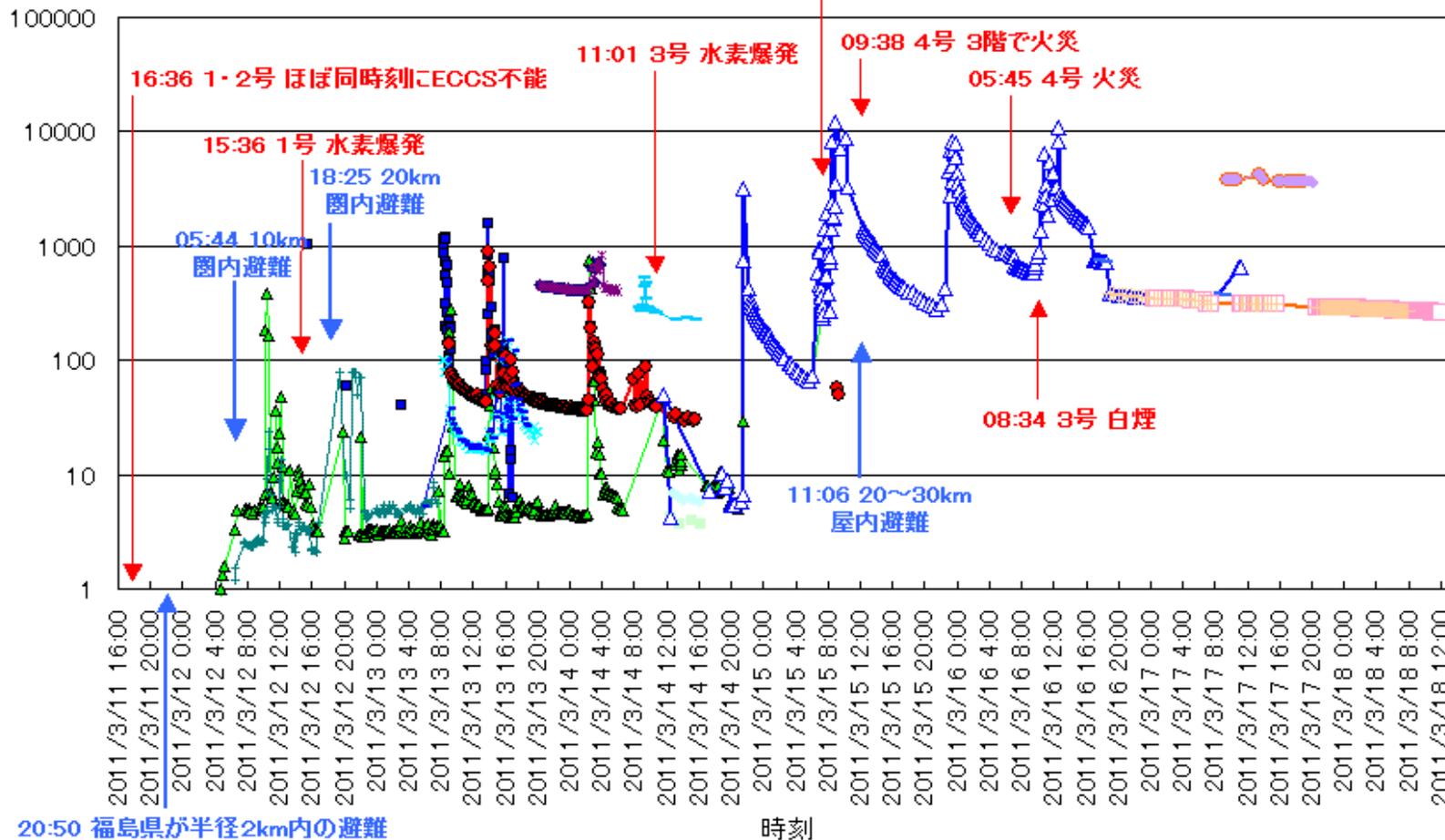
○数年間は冷却を続けなければならないが、
水を入れると高濃度汚染水として漏れ出る。
ジレンマ。

○建屋は線量が高く近づけず、
作業もできない状態。

○さらに、冷却が思うように進まず、
さらなる炉心溶融、水素爆発の危険性も。

避難指示は後手、後手

福島第一周辺の空間線量率 (保安院・東電公表値)



- 保安院 MP2
- 保安院 MP4
- ▲ 東電 正門
- ✦ 東電 MP1
- ✦ 東電 MP2
- 東電 MP4
- 東電 MP8
- 保安院 MP1北側
- 東電 MP3
- 東電 MP5
- 東電 MP6
- ▲ 保安院 正門
- 東電 事務本館北
- 東電 西門
- 保安院 事務本館北
- 保安院 西門
- 保安院 体育館

土壤の汚染と住民被曝 福島の実態

SPEEDIによる甲状腺の内部被曝量の試算

(3月12日午前6時～3月24日午前0時までの積算値)



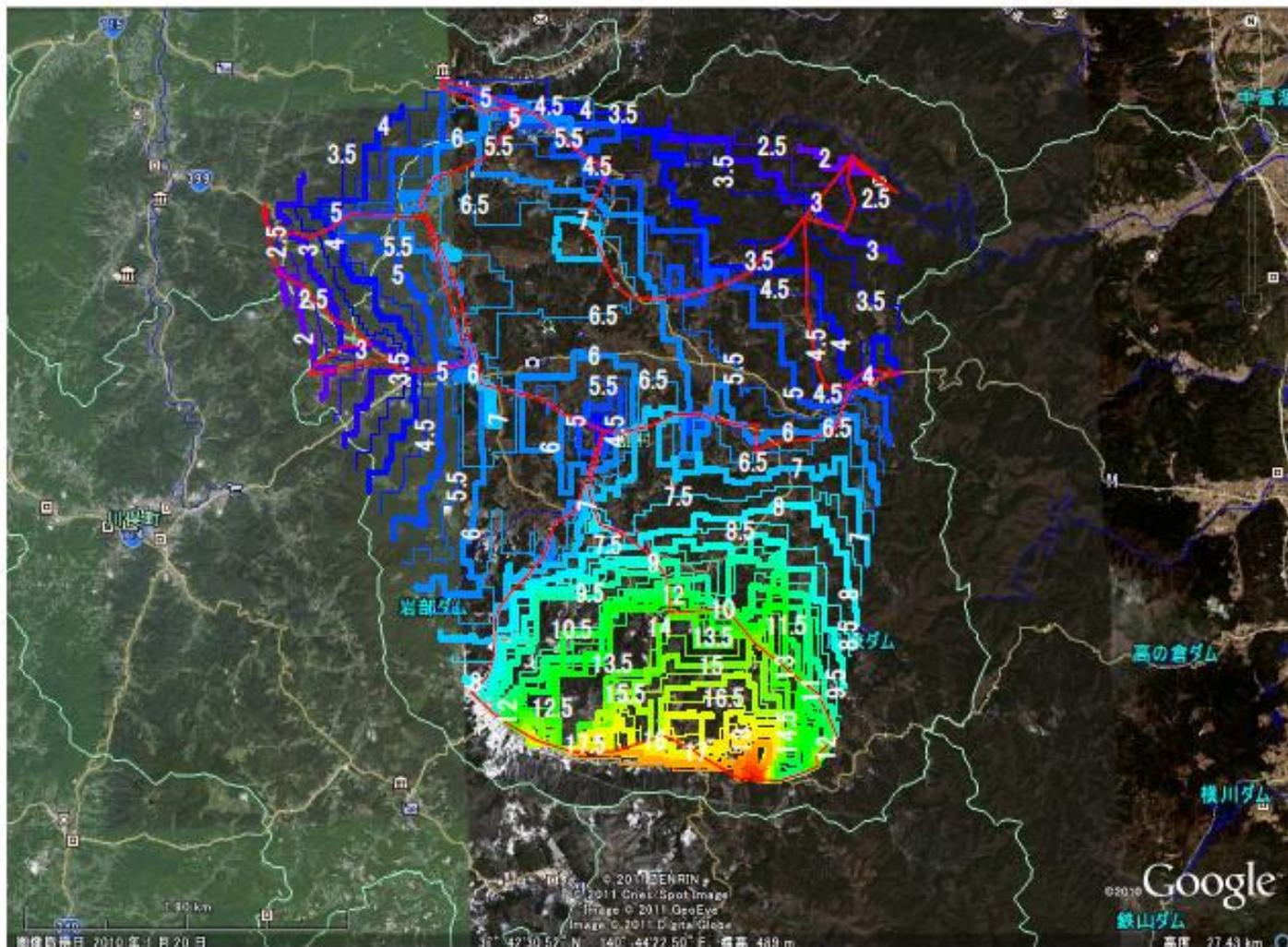
飯舘村の放射線測定調査



GPSで記録した放射線量測定点

『3月28日と29日にかけて飯舘村周辺において実施した放射線サーベイ活動の暫定報告』(京大原子炉・今中哲二氏ほか)

放射線量の等高線（飯舘村）



青から赤になるに従い放射線量率が高い。一番南の赤い所で
毎時18～20マイクロシーベルト(京大原子炉・今中哲二氏ほか)

環境試料の測定結果

単位：Bq/kg

採取地点	市町村名	試料名	種類 又は部位	採取日時	核種	放射能濃度
【2-1】(約40km北西)	飯舘村	陸水	池水	3月19日 11:36	¹³¹ I	2,450
					¹³⁷ Cs	940
【2-1】(約40km北西)	飯舘村	陸水	池水	3月20日 12:40	¹³¹ I	2,010
					¹³⁷ Cs	437
【2-1】(約40km北西)	飯舘村	陸水	池水	3月21日 12:35	¹³¹ I	1,720
					¹³⁷ Cs	246
【2-1】(約40km北西)	飯舘村	陸土	土壌	3月19日 11:40	¹³¹ I	300,000
					¹³⁷ Cs	28,100
【2-1】(約40km北西)	<u>飯舘村</u>	陸土	土壌	3月20日 12:40	¹³¹ I	1,170,000
					¹³⁷ Cs	<u>163,000</u>
【2-2】(約45km北西)	川俣町	陸土	土壌	3月18日 11:45	¹³¹ I	84,300
					¹³⁷ Cs	14,200
【2-2】(約45km北西)	川俣町	陸土	土壌	3月19日 11:00	¹³¹ I	85,400
					¹³⁷ Cs	8,690
【2-3】(約40km西)	田村市	陸土	土壌	3月18日 11:50	¹³¹ I	19,300
					¹³⁷ Cs	3,510
【2-3】(約40km西)	田村市	陸土	土壌	3月19日 11:35	¹³¹ I	6,970
					¹³⁷ Cs	1,260
【2-4】(約25km北)	南相馬市	陸土	土壌	3月18日 13:30	¹³¹ I	22,600
					¹³⁷ Cs	3,280
【2-4】(約25km北)	南相馬市	陸土	土壌	3月19日 13:00	¹³¹ I	35,800
					¹³⁷ Cs	4,040

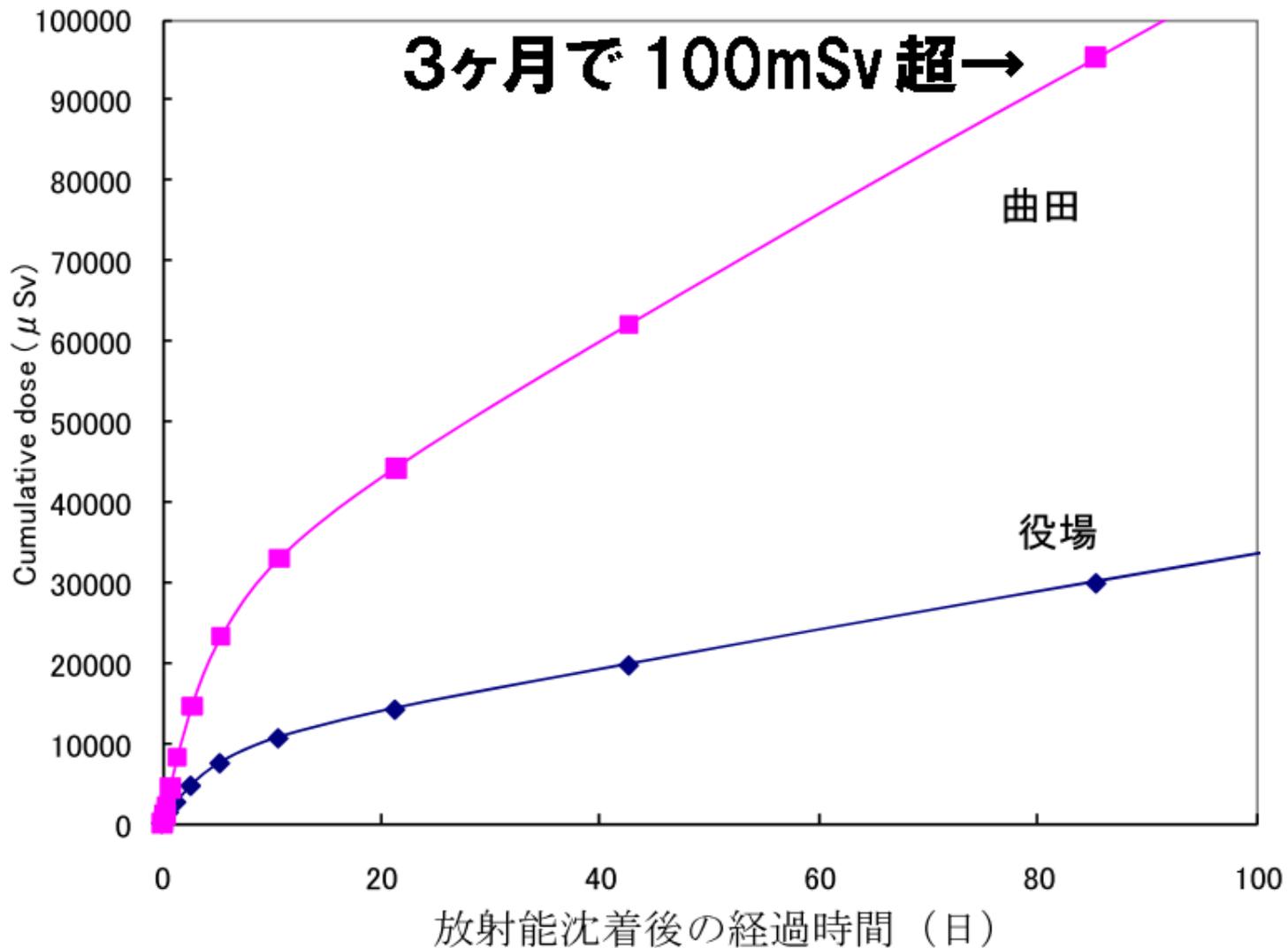
上記測定結果は政府現地対策本部が、福島県に依頼し、その結果を入手したものです。

今中哲二氏の評価では飯舘村の土壤汚染は、

★チェルノブイリ原発事故の
当初の強制移住レベルの2倍以上

★1990年にベラルーシ最高会議が決定した
強制移住レベルの約6倍

今中哲二氏の現地調査では飯舘村内の3ヶ月の累積線量は100mSvを超える。「とても人が生活できる場所ではない」。



役場と曲田における積算線量 (マイクロシーベルト)

想定される警戒区域など



部分的に、計画的避難
(1ヶ月をメドに避難)
を決めざるを得なく
なった。

